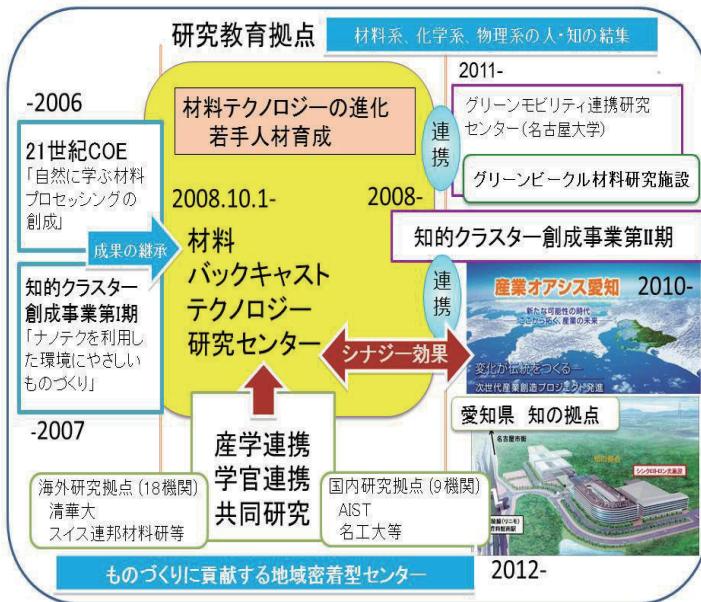


材料バックキャストテクノロジー

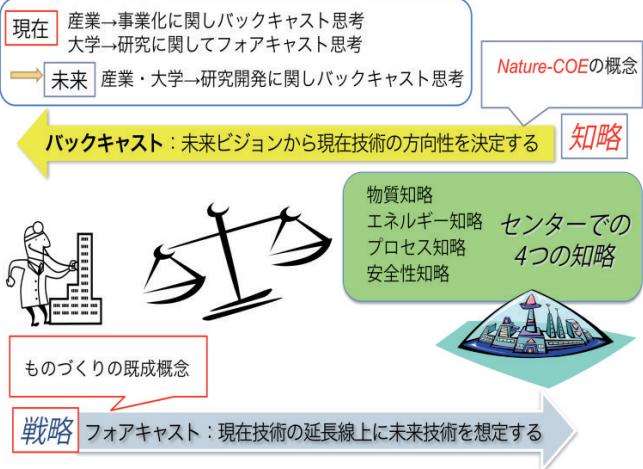
附属材料バックキャストテクノロジー研究センター

ものづくり産業や太陽エネルギー社会の発展に貢献するため、**バックキャスト研究開発理念**に基づく環境に優しい**材料テクノロジーの進化・発展**、および、**若手人材育成**を狙った产学連携研究拠点活動を実施中。



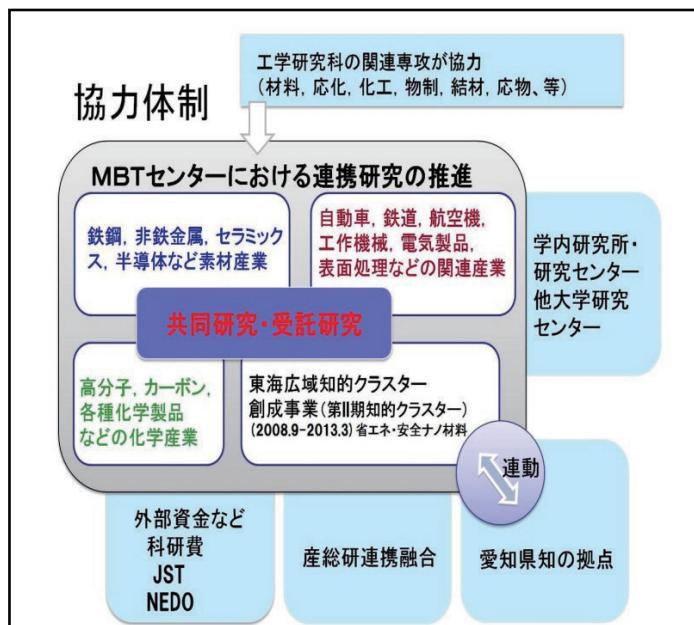
バックキャストテクノロジー

未来社会のあるべき姿から現在の最重要研究開発項目を決定



ものづくり産業との連携、および、大学の頭脳結集

当センターは、①産学官連携センターとしての役割を果たし、②工学研究科の人・知の結集により、幅広い技術課題への対応力を向上し、材料テクノロジーのイノベーションを実現します。



材料バックキャストテクノロジー

附属材料バックキャストテクノロジー研究センター

I. 物質創製と先進評価 (物質知略)



電解プロセスによる表面改質 (興戸研究室)

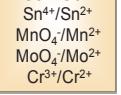
軽量マグネシウム合金の耐食性表面処理

表面処理皮膜には、基板金属との「なじみ」「密着性」と、外界環境に対する「役割」「応答性」が必要。

皮膜の安定性

C ₁₀ (PO ₄) ₆ (OH) ₂	Ce ⁴⁺ /Ce ²⁺
Al(OH) ₃	Sn ⁴⁺ /Sn ²⁺
Cr(OH) ₃	MnO ₄ ⁻ /Mn ²⁺
Ca ₃ (PO ₄) ₂	MoO ₄ ⁻ /Mo ²⁺
Sn(OH) ₂	Cr ³⁺ /Cr ²⁺
Zn(OH) ₂	
Mg ₃ (PO ₄) ₂	
Ce(OH) ₃	
CrPO ₄	
MgF ₂	
Mg(OH) ₂	

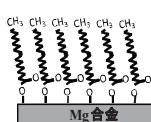
自己修復性



複合化・相乗効果

水溶液処理
(陽極酸化、陰極酸化)
+SAM(自己組織化単分子膜)
+大気圧プラズマ処理

生産プロセスとして成り立つかどうかの視点



はつ水性表面の形成



超高压高温環境及び非平衡準安定状態を利用した新プロセス創成と新材料創製 (長谷川研究室)

高圧力高温プロセス、超臨界流体プロセス、非平衡準安定凝固プロセス、有機—無機変換プロセスなどの様々な材料プロセスを用い、低炭素・炭素固定、クリーンエネルギー、高効率エネルギー変換、ユビキタス元素、リサイクル、無害化などをキーワードとし、材料科学・物理学・化学をベースとした研究者と材料工学・プロセス工学分野のエンジニアが密接に連携する融合共創研究によって、新物質・新結晶の開発を目指す。

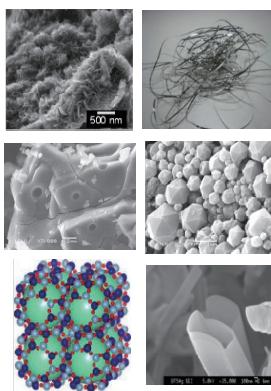
<プロセス>

- 高圧力高温プロセス
- 超臨界流体プロセス
- 赤外レーザープロセス
- 結晶成長プロセス
- 非平衡準安定凝固プロセス
- 有機—無機変換プロセス



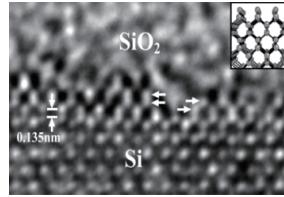
<材料>

光触媒材料、熱電変換材料、パワーデバイス材料、良熱伝導放熱材料、太陽電池材料、二次電池材料、硬質・軟質磁性材料、超伝導材料、超硬材料、アモルファス・ナノ組織材料、ポーラス材料、制振材料、水素関連材料など

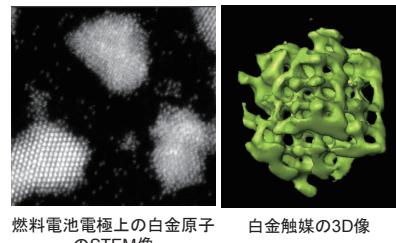


電子顕微鏡による先端材料の微細構造の研究 (田中研究室)

燃料電池材料の微細構造の研究および光触媒材料



シリコン酸化膜界面の高分解能断面TEM像

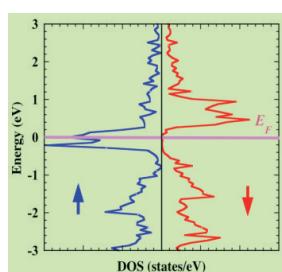


燃料電池電極上の白金原子のSTEM像 白金触媒の3D像

不揮発性・パワーデバイスの創製 (浅野研究室)

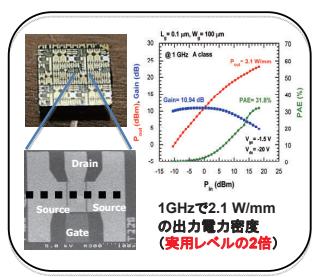
ハーフメタル磁性体、マルチフェロイック材料の開発と不揮発性デバイスの創製

ナノ構造体における電子スピントリオニクスを制御することにより発現する巨大応答現象・量子効果の機構解明と不揮発性デバイスへの応用を目指している。金属と半導体の両方の性質を併せ持つハーフメタル、及び磁性と強誘電性が共存するマルチフェロイック材料の開発や超低消費電力スピンドルデバイスの研究を行っている。



ダイヤモンド半導体によるパワーデバイスの創製

マイクロ波プラズマCVD法を用いて高品質単結晶ダイヤモンド半導体薄膜の成長技術を確立し、水素終端二次元正孔伝導層を用いることにより1GHzで2.1 W/mmという、実用レベルの2倍もの高い出力電力密度を有する電界効果トランジスタ(FET)を実現している。



材料バックキャストテクノロジー

附属材料バックキャストテクノロジー研究センター

III. 自然に学び環境にやさしいプロセスの創製 (プロセス知略)



光でならべる、動か光スマート応答ソフトマテリアル (関 研究室)

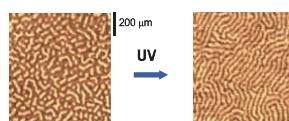
光伸縮と光分子配向

概要

典型的なフォトクロミック分子であるアズレンゼンを有する高分子の单分子膜において、光照射により世界最高レベルである3.4倍に及ぶ可逆的な面積変化を実現した。この現象を利用して、ブロック共重合体の二次元ミクロ相分離の構造を光で変化させることにも成功した。また、光応答分子膜あるいは高分子薄膜へ偏光を照射することにより、その上に形成される高分子薄膜やメソ細孔シリカ薄膜の配向を転写、パターニングする技術も開発した。

この研究の新規性・独創性

单分子膜の光伸縮挙動は独自に見出した現象である。最近はブロック共重合体のミクロ相分離構造を光で制御しているが、従来ミクロ相分離構造(数10nm レベルのパターン)の制御は、高分子の設計と合成に頼っていたが、外部刺激にてこれを制御するという新たな提案を行った。



ブロック共重合体のミクロ相分離構造が光で変化する

高感度光誘発物質移動

概要

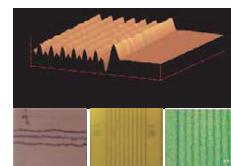
水銀灯光源にて数秒の照射時間にて十分に物質移動を誘起できる世界長高感度の液晶材料膜系を開発した。この現象を利用した色素、高分子、半導体粒子などの機能物質その利用に向けた研究を進めている。この手法でブロック共重合体のミクロデザイン構造の配向制御とパターン化も可能となった。

この研究の新規性・独創性

アズレンゼン高分子膜における光誘起物質移動現象は1995年にカナダと米国で見出されたものだが、当グループでは、液晶物質の強い協同性に基づく移動機構の全く異なる高感度な物質移動現象を見出した。ブロック共重合体のミクロドメインの配向を光で自由に制御することもでき、数十nmサイズの構造体の光制御への道を拓いた。新たに開発した高分子、量子ドットなどさまざまな昨日物質をバターニングできる

産業連携を目指した応用研究

パターン露光によって速やかに μm レベルの大きさのリーフ構造ができるので、その利用したホログラム、液晶配向膜、機能物質のパターン化、形状テンプレートなどへの応用が考えられる。



光誘発物質移動現象を利用して、色素、共役高分子、量子ドットなどさまざまな昨日物質をバターニングできる

地球環境との共生のためのセラミックス

(北 研究室)

サーマルマネジメント部材とエクセルギー解析

太陽熱や地熱、及び工場廃熱等の未利用エネルギーを効率的に利用するにはサーマルマネジメントが不可欠です。当研究室では耐熱耐食性に優れたセラミックスを使ったサーマルマネジメント部材の開発、ならびにエクセルギー概念に基づきライフサイクル全体の有効度を定量化するための研究を進めています。こうした研究を基に、最終的には熱エネルギーを無駄なく使うカスケーディングネットワークの構築を目指します。

研究開発の概要

1. 軽量・高エネルギー密度のPCM (Phase Change Material) を内包したセラミックシェルカプセル構造体の開発を進めています。
2. 新たに開発した低熱伝導材とマクロなデザインの融合により断熱性が飛躍的に向上した高温槽を試作、性能を実証しました。
3. ライフサイクルでの資源消費をエクセルギー概念をベースに定量化し、セラミックスの有効性を示しました。



新規性・独創性・蓄熱体及び蓄熱方法(北英紀、特許2010-261101)

2. セラミック技術の融合による高温断熱大型容器の開発 (Hideki Kita et al., J. Int'l. App. Ceram. Tech. - in print)

3. ライフサイクルでみたセラミック部材のエクセルギー消費 (Hideki Kita et al., J. Int'l. App. Ceram. Tech. vol.5, No.4, pp.373-381 (2008))

熱のカスケーディングネットワークと
サーマルマネジメント部材
=熱を貯める、運ぶ、換える、逃がさない

組織制御に基づいた耐熱金属材料の高性能化 (村田研究室)

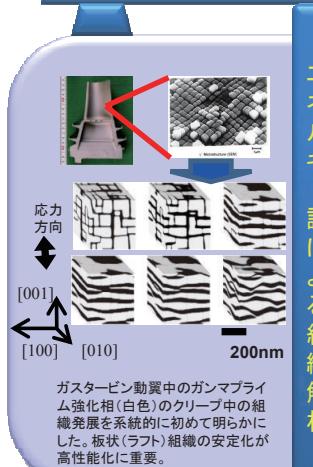
効率向上



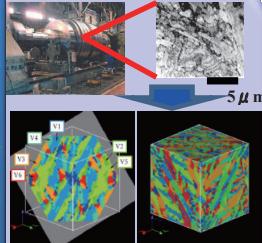
低炭素化



Cool Earthを支える耐熱金属材料



ガスターイン動翼中のガムマブライム強化相(白色)のクリープ中の組織発展を系統的に初めて明らかにした。板状(ラフト)組織の安定化が高性能化に重要。



発電プラントに用いられる先進耐熱鋼のミクロ組織(ラスマルテンサイト相)。ラスマルテンサイト相のサブロック構造(V1~V6)の形成要因をフェーズフィールドシミュレーションを用いて初めて明らかにした。ラスマルテンサイト相の安定化が高性能化に重要。

高機能性材料の創製

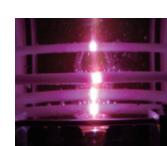
(斎藤永宏研究室)

ソリューションプラズマが切り拓く次世代蓄電材料

研究の概要

水溶液中のプラズマ(ソリューションプラズマ)を具現化することによって、従来の熱のみによる化学反応よりも高速のプロセスを実現。ナノサイズの触媒粒子の合成に成功し、革新的な次世代リチウム空気電池へ展開している。

新しい反応場



多種ソリューションプラズマ放電の様子

特長:
UV光、電子、励起種、ラジカル
が従来の溶液化学に参画

従来の溶液化学に対する優位点:
・低温を維持
・高密度の活性種の寄与
・活性種の「点」供給で体積処理可能
・酸化 & 還元の両刃使い
・酸化剤・還元剤は不要

革新電池へ展開

ナノ粒子・クラスター

触媒担持材料

1~2nm

Auナノ粒子担持 Ptナノ粒子担持

200 nm

リチウム空気電池の構成

金属Li

有機溶媒

O₂

セラミック

空気槽

充電電流

Au/B

Auナノ粒子をカーボン材料に

担持することで、容量、出力が

増大



材料バックキャストテクノロジー

附属材料バックキャストテクノロジー研究センター

IV. 将来の安心安全社会を支える材料技術 (安全性知略)



セラミックスを基材にして生体の組織を修復する 医用材料を創製 (大槻研究室)

高い生体吸収性を持つ骨組織修復材料の開発

概要

本格的高齢社会を迎えた我が国では、病気やけがで損傷した運動機能を治療する技術の発展は不可欠の課題である。生体活性セラミックスは、骨組織と直接結合する高い生体組織親和性を発現するので人工骨として利用されている。ただし、骨と同じ機械的特性を持つ材料は得られ難く、長期残存した場合の不具合が懸念される。生体吸収性材料であれば、長期残存に伴い懸念されるリスクは小さくなる。本研究課題では、新規な組織修復材料や薬剤徐放システムに応用を目指して、生体吸収性を制御したセラミックスや有機無機ハイブリッドの多孔体を開発する。

この研究の新規性・独創性

生体内での吸収性は、種や埋植部位、埋植方法によって異なる。そこで、種々の吸収性に適応する材料の設計を、セラミックスの組成だけでなく、その微細構造の設計、有機修飾の手法で達成する。

産学連携を目指した応用研究

整形外科、形成外科、歯科分野で応用可能な新規な材料開発を進めている。

バイオミメティックプロセスによる無機薄膜のコーティング

概要

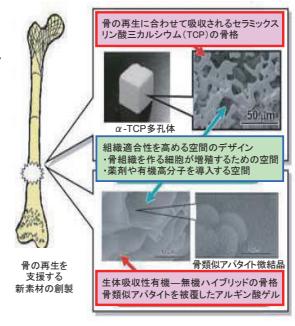
生物は、巧みな有機一無機複合構造をきわめて穏和な環境で合成している。本研究では、生体内で起こる反応に倣ったバイオミメティックなプロセスで新規な複合材料の構築に取り組む。

この研究の新規性・独創性

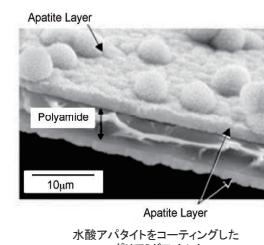
ヒトの液体に類似した環境を模擬的に作り出し、その中に有機高分子の表面に無機物を形成させる。この手法は、穏和な条件で高機能な水酸アパタイト(Apatite)の膜を有機高分子基板に複合化できる。水酸アパタイトと有機高分子の機能性を併せ持つ新素材が創製できると期待される。

産学連携を目指した応用研究

水酸アパタイトの吸着特性を利用したフィルターなどへの応用も期待される。



骨の代謝に合わせて吸収される新規な人工骨を開発



安心安全を支える材料加工

(石川研究室)

高精度制御鍛造のための材質予測FEMシステム構築

概要

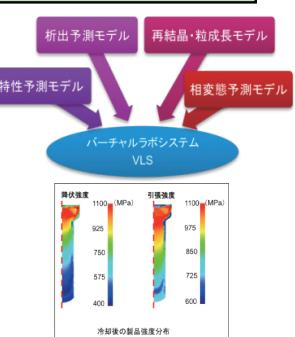
形状付与とともに、必要な箇所に適正な材質・特性を付与し、同一部材内に材質特性に傾斜を設ける制御鍛造技術が期待されている。しかし所望の材料特性を得るには、温度、ひずみ、ひずみ速度の正確な制御を必要とするため、実験的アプローチでは膨大な時間とコストがかかる。そこで強度予測、微細組織予測を変形解析と同時に実行する材質予測FEMシステムを構築した。

この研究の新規性・独創性

各種実験データベースにより提案された多様な予測モジュールを解析ソフトに組み込み、非定常かつ有機的に連成することが可能なバーチャルラボシステム(VLS)を構築した。

産学連携を目指した応用研究

VLSの利用によるプロセスモデルリングによつて高精度なネットプロセス化・制御鍛造の実現が可能になる。



冷間鍛造を用いた異種金属接合技術の開発

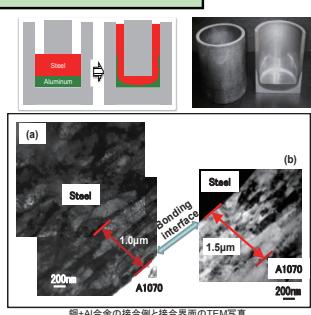
必要な箇所に適正な材質を付与するネットプロセス化による一環として、冷間鍛造工による表面積拡大および高面圧状態による異種金属の接合技術開発を行う。実験とシミュレーションの援用により、最適な接合条件の導出を目指す。また接合界面の観察により接合メカニズムを解明することで、技術展開を図る。

この研究の新規性・独創性

従来の接合技術における問題点を解決すべく提案された新しい接合技術である。塑性加工と異種金属接合を同時に行うことが出来ため、今後の技術展開に期待できる。

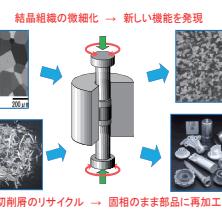
産学連携を目指した応用研究

同一部品の中で材質特性に傾斜を設けることが可能であるため、複雑形状の成形や軽量化などに期待できる。



地球環境に優しい新材料・新プロセスの開発 (金武研究室)

圧縮ねじり加工法による金属材料の組織制御と高機能化



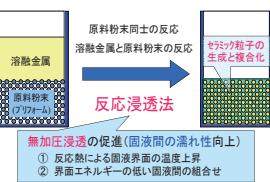
金属基およびセラミック基複合材料の開発と特性評価

金属・セラミック複合材料およびセラミック・セラミック複合材料を簡便に製造するため、化学反応熱を利用した自発的な複合化プロセス「反応浸透法」を開発し、その応用研究を行っている。

「反応浸透法」は反応熱を有效地に利用した独自のプロセスで、外部からのエネルギー投入量が少ない。

また、反応によりセラミックがその場で生成するので、化学的に安定な様々な

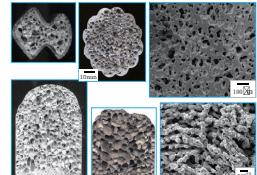
形態のセラミック相を合成可能である。



ポーラス金属・ポーラス無機化合物の製造プロセスと特性評価

ポーラス材料は、超軽量、高剛性、断熱性、制振性、吸音性、ガス透過性など、緻密材では得られないユニークな特性を有する。材料内部の気孔形態を制御する新しい材料開発の考え方により、各種形態のポーラス材料を開発している。

発泡助剤を添加した金属粉末ブリカーサを加熱して発泡するポーラス金属の開発、強い発熱を伴う化学反応を利用した燃焼合成法によるポーラス無機化合物の開発を行っている。

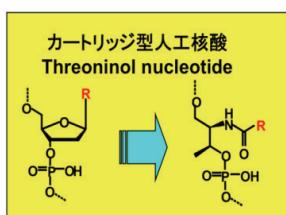


ナノバイオテクノロジーのための人工核酸

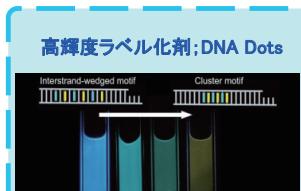
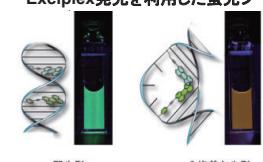
(浅沼研究室)

カートリッジ型人工核酸による高機能DNAの開発

当研究室では、非環状オリゴールであるD-threoninolに機能性分子を導入したカートリッジ型人工ヌクレオチドが、天然のDNAと非常に高い互換性を持つことを明らかにしてきました。このカートリッジ型人工ヌクレオチドを天然のDNAに疑似塩基として導入することで、1) 遺伝子のわずかな差異を検出す高機能プローブ、2) 生体分子の高輝度ラベル化剤の開発に成功しております。



Exciplex発光を利用した蛍光プロ



カートリッジ型人工核酸関連特許

PCT/JP2009/061980, 特願2010-042632, 特願2010-194942, 特願2010-206043